

(別記様式)

令和7年度 府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none">・創造性に富み、心豊かな、たくましい人間の育成を図る。・地域に根ざし、地域に愛される「地元の高校」を目指し、学力の向上と調和のとれた人格の形成を図る。 <ol style="list-style-type: none">1 学力の向上と希望進路の実現2 学習と部活動の高いレベルでの両立3 「探究活動と研究の桂」の推進4 生徒の自主活動の推進5 地域連携や地域貢献のさらなる充実	<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none">1 近隣の小中学校をはじめ、大学や民間機関等との連携において効果的な学習成果と地域貢献を果たすことができた。2 専門学科では、TAFSの研究活動を軸に各種コンテストにおいて高い評価を受けた。普通科ではKR（桂リサーチ）コースにおけるKRPを軸とし、探究活動プログラムを確立・推進することができた。3 本校の特色や教育活動について、近隣地域や中学生等に一定の理解が進み、地域に根ざした学校の一つとして認識された。4 普通科のKD、KRコース設置完成年度となり、国公立大学の合格者が飛躍的に向上するとともに、私立大学においても、近隣大学を中心にこれまで以上の合格者を出すことができた。 <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none">1 「自主自律」の校風のもと、自ら学び、自ら考え、主体的に活動できる生徒の育成2 専門学科の将来を見据えた教育改革と進路を見据えた普通科のKD、KRコースの配置のあり方と教育内容の検証、検討3 ICTの効果的な利活用とデジタル・シティズンシップ教育の推進4 服装・頭髪指導の教職員間での基準の共有および見直し	<ol style="list-style-type: none">1 特色ある学校づくりの推進<ol style="list-style-type: none">(1)学校の特色や魅力を、中学生とその保護者、地域住民への発信と、小中学校を含めた地域連携・地域貢献の充実(2)普通科におけるコース設置による成果の検証と充実・発展(3)専門学科における高大連携、産学連携を生かした研究活動の推進と教育内容の充実2 学習、進路指導<ol style="list-style-type: none">(1)社会と自己を結びつけた主体的進路選択とその実現を図る妥協させない進路指導の充実(2)新学習指導要領の着実な実施とともに、新しい時代に応じた全教科及び総合的な探究の時間における探究的な学びの実践(3)ICTを効果的に活用した授業実践と一人一台端末を活用した学習指導の充実(4)文武両道の実現を念頭に置いた指導方法の研究及び環境の整備3 生徒指導<ol style="list-style-type: none">(1)自主自律の精神のもと、基本的な生活習慣や規律ある学校生活の確立(2)生活態度や挨拶等の指導による、生徒の社会性を高める指導の推進(3)自己肯定感を高め、自主的・主体的活動や社会的視野を広める取組の推進と、生徒の「桂プライド」の醸成4 人権教育及び教育相談及び特別支援教育<ol style="list-style-type: none">(1)生徒の人権意識の向上を図る指導の実施及び人権問題の解決に向けた資質・能力の育成(2)いじめを未然に防止し、組織的に対応できる体制の確立(3)配慮の必要な生徒への理解の促進と、合理的配慮に基づく対応の充実5 危機管理意識の向上<ol style="list-style-type: none">(1)安心・安全を最優先とした教育活動の実践(2)交通安全指導の充実

評価領域	重点目標	具体的方策	評価				成果と課題
組織・運営	◇各種会議の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化する。	◆各分掌部長は学校運営にあたって、校長の経営方針をよく理解し、本校の教育活動全般の活性化に向けて分掌を組織的に導き、一人ひとりの教職員が学校運営を担う意識をもち、教育活動にあたる。	1	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌部長を中心に、校長の経営方針に従った学校運営を行うことができた。 ・専門学科のさまざまな取組をとおして、地域との交流をはかることができた。ホームページやSNSをとおして、本校の魅力を発信することができた。在校生保護者に対しては、各分掌からの連絡を、積極的にWEBを活用し配信した。 ・公開・研究授業週間を活用し、教員相互の学びの場を設定した。総合的な探究の時間の発表会を、専門学科、普通科合同で実施することで、交流と対話を通じた学びを深めることができた。 ・ICTを効果的に活用した授業実践はもちろん、その他業務についてもICTを日常的に活用することで、働き方改革を推進することができた。 ・普通科KD、KRコース設置4年目を迎え、これまでの教育成果を振り返るとともに、今後の各コースのあり方や目標について検証・協議を行った。
	◇地域の信頼を高める学校づくりを行う。	◆専門学科、部活動、学習活動等の教育活動を、地域及び在校生保護者へ積極的な情報発信を行い、本校への理解をさらに深める。	2	A	A		
	◇専門学科、普通科の特色化を進める。	◆専門学科、普通科新コースの教育内容の検証・研究を組織的に進めていく。	3	B	B		
	◇新学習指導要領の着実な実施を組織的に遂行する。	◆教科主任会議をはじめ、各種会議等を組織的に連動させることにより、新学習指導要領に基づく指導を着実に実践する。	4	B	B		
		◆TAFSと総合的な探究の時間の実績をもとに、教科における探究活動等を推進する。	5	B			
	◇ICTの効果的な活用を推進するとともに、働き方改革を推進する。	◆「情報教育推進会議」を軸として、教職員のICTスキルの向上とデジタル・シティズンシップ教育の推進を図る。また、ICTを活用し、業務効率化を推進する。	6	B	B		
学習指導	◇「よりよい授業」構築のため、教科指導力を向上させ、生徒の学力充実に繋げる。	◆公開・研究授業週間を年2回実施し、授業アンケートの結果等も踏まえて、教員全員が授業力の向上のため研鑽する。	7	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公開・研究授業週間においては、常勤・非常勤を問わず全教員が授業を公開し、授業実践の共有・交流を図った。特に研究授業では、教科内のできるだけ多くの教員が参観できるよう、工夫を行った。一方、参観者数の一層の増加に向けた取組が今後の課題である。 ・授業規律の確立については、年度当初に全教職員で指導内容を確認し、共通理解のもとで指導を実施することができた。昨年度のタブレット端末の制限緩和に伴い規律の乱れが懸念されたものの、大きな影響は認められず、概ね規律ある授業を実施することができた。 ・観点別評価については、教科ごとに評価方法が徐々に確立されつつあり、生徒
		◆授業規律の確立について、全教職員が共通の意識を持ち、一致した指導を行うことによって、生徒が集団として学習意欲を持って授業に取り組める基礎を作る。	8	B			
		◆新学習指導要領における観点別評価について、昨年度の結果を振り返り、改善を進める。	9	B			
	◇希望進路の実現につながるよう学力を向上させる。	◆各分掌や各教科において生徒の学力の向上と希望進路の実現に向けて創意工夫を重ねるとともに情報を共有し、組織的に取り組む。教科主任会議のさらなる活性を図る。	10	B	B		

		◆生徒がコース選択・科目選択を適切に行えるよう、担任及び関係分掌と連携を取り合い生徒と保護者に対してわかりやすくて確かな説明をする。	11	B			の学習状況を的確に把握した、丁寧な評価が行われている。 ・コース選択については、第1学年部と教務部が連携し、新2年生について2コース混合クラスを設けることなく、適切なコース編成を行うことができた。一方で、生徒の希望と必ずしも一致しない選択となった事例も見られたことから、今後は、より丁寧な進路指導および情報提供の充実が課題である。 ・すべての教科において、ICTを活用した授業展開について研究・実践を行うことができた。
	◇教科に対する興味と学習意欲を高め、学力を向上させる。	◆教科に対する興味と学習意欲が高められるような授業展開（ICTを活用した授業、主体的・対話的で深い学びとなる授業）を学校全体で研究・実践・情報共有し、各教員が新学習指導要領にそった授業展開となるように工夫をすることで、生徒の学力と満足感の一層の向上を図る。	12	B	B		
		◆学習強化週間（年間計10週間）を定期考査毎に実施し、自学自習・自主自律を基本とした学習習慣を身につけさせる。	13	B			・定期考査2週間前から学習強化週間を実施し、学年部の協力の下、学習計画の作成や考査の振り返りなどを行った。 ・各学年で希望進路に応じて、進路別ガイダンスや説明などを開催した。教科指導との連携は検討する必要がある。
		◆各学年で、生徒の実態を踏まえ、進路希望に応じた行事を開催し、教科指導と連携しつつ学習意欲を高める。	14	B			
生徒指導	◇生徒指導の現状と課題について、教職員の共通理解を深め、基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	◆日常の生活指導の状況や課題について学年部をはじめ、教職員全体で共通認識が持てるよう、連絡・発信、相談を徹底する。	15	B	B	B	・交通指導については、警察署をはじめ地域と連携して指導をおこなった。基本的な生活習慣を育むことをねらいとして生徒指導部で遅刻者の記録をとり、声かけ等をおこなうが同じ生徒の遅刻が続き、現状の指導形態での効果については疑問が残り、検討する余地がある。 ・服装および頭髪などの身だしなみ指導については引き続き教職員間での基準の見直しと共有が必要である。
		◆服装・頭髪・交通安全指導等について、教職員間での基準の共有および見直しを通して、連携しながら指導にあたる。	16	B			
特別活動等	◇生徒会を中心にリーダーを育成し、生徒の自主性を育む。	◆生徒会が学校生活のさまざまな面でリーダー性を発揮できるよう、生徒指導部を中心に適切な指導を行う。	17	B	B	B	・文化祭、体育祭、クリスマスコンサート、新入生歓迎会などの学校行事を、生徒会を中心に生徒が主体的に運営した。特に文化祭やクリスマスコンサートでは生徒会から企画・立案されるものもあり、自主的な活動を尊重して運営することができた。
		◆学園祭会議を通して、文化祭や体育祭をはじめ、様々な学校行事において全校生徒が自主的・主体的に活動できるようにする。	18	A			
	◇部活動と学習を両立させ、部活動や野外活動等で学ぶ集団行動や規範意識を生涯にわたる基礎とする。	◆部活動加入率の向上と活動内容のさらなる充実による学校全体の活性化を図る。 ◆野外活動や研修旅行の教育的意義を十分に理解させ、集団行動のなかで社会性を養う。	19	B	B		
			20	B			

						<p>生徒たちがより活動を充実させ、より満足感や達成感を感じられる行事とするためにも引き続き教職員全体で協力して行事を運営していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は全校で約77%となり、日々活発に活動している。ただし、部員数が十分に確保できている部活動と公式戦・コンクール等への出場において必要部員数に余裕のない部活動もあり、部員数に偏りが生じている部活動もある。 	
進路指導	◇生涯を見通した進路選択のための適切な指導と援助を行う。	◆3年間の進路指導計画を策定し、適切な時期に的確な資料・情報を提供する。また、個に応じた指導を重視する。	21	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部と連携し、3年間を見据えた進路行事や進路LHRを実施した。進路だよりを含め、資料、情報を提供できた。 ・就職講座を通して丁寧に指導できた。 保護者説明会を実施し、保護者の協力のもと概ね希望進路を実現できた。 ・模擬試験や実力テストの受験者は増加し、進路実現に向けて活用できた。進学補習は計画通り実施できたが、希望者向けの進学補習は受講者が減少した。効果的なものにするために計画や内容を検討する必要がある。
	◇希望進路実現のために必要な学力の充実と向上を図る指導と援助を行う。	◆就職希望者のために説明会やガイダンス等を実施し生徒の希望の進路を実現させる。	22	B	B		
		◆生徒の実態に即した進学補習計画（平日補習・長期休業中補習）を効率的に運用するとともに、模擬試験や実力テストを積極的に受験させ活用し、大学入試等に対応できるようにする。	23	B			
人権教育	◇教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切に教育を推進する。	◆日常の教育活動全般をととして人権問題を自らの生き方の問題として捉えさせる。また、人権学習の講演や映画鑑賞を通じて自己と他者（社会）との関わりを考えさせる。特に、いじめや差別を許さない生徒の育成に努める。	24	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全3回のいじめアンケートの実施とともに、アンケートに頼らなくても、日頃から生徒が困っている状況を関係教職員に相談しやすい雰囲気・関係性が構築できている。 ・人権学習講演会や人権映画鑑賞等を通して人権意識の向上が図れた。SNSなどインターネット利用におけるモラル向上やLGBTQをはじめ多種多様な人権への知識と実践力の向上にむけて引き続き学びの機会を設ける必要を感じる。
健康・安全教育	◇健康・安全についての意識を高め、自律的な生活習慣を確立させる。	◆健康診断の結果を基本的な生活習慣の確立への指導につなげるとともに個々の健康相談の充実を図る。	25	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断を学校医と連携しながら計画的に実施することができた。
		◆保健委員会活動を通して、生徒自らが健康、美化活動	26	B			

		などに取り組むよう指導する。				
	◇教育相談を充実させる。	◆配慮や支援の必要な生徒の将来の自立を見据え、教育支援会議を通じた情報共有を促進し、関係機関との連携を図りながら、個に応じた取組を校内で組織的に行う。	27	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・11月を美化月間に設定した。生徒アンケートから重点項目を決めて清掃を実施した。また、文化祭はポスター展示とクイズラリーを実施、毎週冷水機の水質検査などの活動をした。 ・支援の必要な生徒に対する手立てを担当と連携しながら行えた。特別支援学校と・医療・療育機関と連携し、個々に対応できた。 ・掃除ロッカーにつっぱり棒とフックを取り付け、ロッカーの整理を行った。トイレ使用のマナーやゴミの分別への意識付けを行った。
	◇校内の環境美化を推進する。	◆日常の清掃活動の徹底とともに、重点的な大掃除や美化週間などの取組を通して生徒の校内美化への意識付けを図る。	28	B	B	
読書指導	◇教育活動に役立つ資料を収集し、豊かな心を育む読書活動を推進する。	◆新入生オリエンテーションの実施や、ICTの活用によって、生徒の自主的な図書館利用の促進と読書習慣の形成を図る。	29	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数は昨年並みにとどまったが、来館者は増加した。 ・授業利用はやや減少したが、小論文指導の連携など幅広く支援ができた。 ・文化祭・読書週間での企画に成果があったが、有志の力が大きい。
		◆図書館を利用した教科の学習や探究活動、その他特別活動への支援を強化する。	30	B		
	◇生徒の自主活動として図書委員会活動を援助する。	◆図書委員会の活動を活性化し、読書を啓発するための取組や図書館を利用したイベントを企画・実施する。	31	A	A	
渉外・広報・事報・事務	◇広報活動を充実し、学校情報を迅速に提供する。	◆広く本校の教育活動の発信を行い、ホームページやSNSをより充実させる。	32	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公式ウェブサイトやインスタグラムを更新し、リアルタイムに情報提供することができた。 学校公開等の説明会を通して、中学生や保護者等に広報することができた。 ・保護者や学校運営協議会からの意見に真摯に耳をかたむけ、安全を最優先事項として、教室のLED照明化、空調の設置、トイレの洋式化等、老朽化による施設修繕を行った。まだ、できていない箇所もあるため、次年度以降も継続して整備していく必要がある。
	◇積極的な生徒募集、本校への志願者の増加の取組を実施する。	◆学校公開や説明会、部活動見学、中学校説明会等を通して、中学生・保護者等に本校の紹介を行い、適切に情報を伝え、より一層興味・関心を高める。	33	A	A	
	◇外部評価を積極的に取り入れ、学校改善に生かす。	◆保護者・PTA・学校運営協議会との連携を深めるとともに、中学生が本校に期待し、求めるものを十分に把握し、外部評価に対し改善すべきものは迅速に対応する。	34	B	B	
	◇各種奨学金制度の情報提供を行う	◆各種奨学金制度について、スタディーサプリ等を利用し、情報提供を行い、円滑な事務処理を行う。	35	A	A	
	◇学校施設の改修及び多面的な学習環境の整備を行っていく。	◆本校教育活動の推進及び生徒の安心・安全を第一に学校施設の改善と効率的な活用を考え、整備していく。	36	B	B	
研究・開発	◇農業・環境のスペシャリスト育成を目指し研究開発に取り組む。	◆TAFS(Training in Agriculture for Future Specialists)プログラムを深化させ、地域や社会の健全で持続的な発展を担うスペシャリストを育成する教育課程	37	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に研究活動に取り組みせ、全国大会で最優秀を獲得するなど、その成果

		の研究開発に取り組む。				
	◇専門科目の授業、教科指導の充実・発展に取り組む。	◆新しい施設・設備を有効に活用し、TAFSや専門学科の教科指導、フィールド科学実習、農業クラブ活動の中で主体的・対話的で深い学びを通して専門性を高め、地域社会と協働的に取り組む態度を養い、社会で活躍できる生徒の育成に努める。	38	A	B	<p>も残すことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や大学など外部との連携も多く、より専門的で協働的な取組が多数実践できた。 ・TAFSプログラムの深化が難しくなっていることも含め、まずは日常の教科指導や実習において丁寧な指導と生徒の育成が必要である。 ・今後の専門学科の在り方、方向性について考え検討を進めたが課題も残る。 ・今年度も総合的な探究の時間・課題研究発表会として、専門学科と普通科合同の探究活動発表会を実施することができた。専門学科と普通科の連携は今後も継続し、さらなる深化を目指したい。 ・普通科の探究活動においては、現行の1年生での活動で「探究の型」を身につけることは難しく、2年生での探究活動につながっていない現状がある。2年生での探究活動を見据えた取り組みを1年生で実施し、また、学年間の連携を活発にすることで、2年間で完結する探究活動を展開したい。
		◆専門学科の将来構想の方向性と観点別評価やICTの活用などの先進的な実践を通して、新しい時代に合わせた専門学科の在り方を検討する。	39	B		
	◇学校全体で研究・探究活動を推進する。	◆専門学科のTAFSと普通科のKRP（Katsura Research Project）や総合的な探究の時間との連携を含め、桂高校全体として研究・探究活動をさらに推進する。	40	B	B	

学校関係者 評価による 委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・KD・KRコースにおける教育実践は着実に成果を上げている。現状の課題を精緻に分析・解消することで、教育課程のさらなる深化と発展を強く期待する。 ・行事や地域活動に勤しむ生徒の清々しい挨拶や態度は、地域社会に深い感銘を与えている。特に卒業式で見せた凛とした姿は、教職員による日々の慈愛に満ちた指導の賜物であり、高く評価したい。 ・専門学科が中心となった地元小学校との交流など、地域に根差した独創的な取り組みは、本校の大きな財産である。 ・保護者への情報発信を一層可視化し、教育方針への共感を広げることで、PTAとのより強固なパートナーシップの構築をお願いしたい。
-----------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた学力育成：KD・KRコースの深化を図るべく、早期からのキャリア教育を徹底し、高い志に基づいた「主体的な学び」を組織的に支援する。 ・メリハリのある教育活動による人間形成：学校行事等の「非日常」を自己成長の好機と捉え、日常の学習活動との双方向的な連動を図ることで、時と場所に応じ自律的に行動できる生徒を育成する。 ・戦略的な広報と信頼関係の構築：デジタル媒体（HP・SNS）による機動的な発信に加え、保護者との直接的な対話の機会を拡充することで、教育活動への深い理解と強固な連携体制を構築する。
-----------------------	---

